

知事広聴（中部地域）議事録

開催日時：令和6年11月13日（水）13時30分から15時

会場：焼津PORTERS

出席者：鈴木知事、望月広聴広報課長、県民9名

（望月広聴広報課長）

本日はお忙しいところ、知事広聴に御参加をいただきまして大変ありがとうございます。

私は本日の進行役を務めます、静岡県広聴広報課長の望月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれより着席をして進行をさせていただきます。

本日の会議録は、個人情報を除くなど編集をした上で、後日、県のホームページにて公開をいたしますのであらかじめ御了解願います。

また、本日カメラで動画を撮影をしております。動画全編を県のホームページで後日公開予定ですが、皆様にはカメラの方をあまり意識せずですね、率直な御意見を賜ればというふうに思っておりますのでよろしくお願いをいたします。

それでは、開会にあたりまして知事から御挨拶を申し上げます。

（知事）

はい、皆さんこんにちは。

今日はそれぞれ御多用の中ですね、知事広聴に御参加をいただきまして、本当にありがとうございます。この知事広聴は県民の皆様がですね、日頃問題に感じていることとか、地域の課題などをですね、率直にお伺いをして、それを我々県政に生かしていくということで、行っているものでございますけれども、今年はですね、皆さんと歓談をする形でざっくばらんにですね、御意見を伺うということで、こうした車座形式でですね、広聴会にさせていただいております。今日は限られた時間ではありますけれども、皆様の日頃感じてらっしゃること等をですね、ぜひ率直に御意見等いただければというふうに思っております。

我々しっかりとですね、県政に生かしていきたいと思ひますし、御質問の中にですね、今日即答できないものがあれば、後日しっかり回答の方返していきたいというふうに思ひますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それではどうぞ時間までよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

（望月広聴広報課長）

ありがとうございます。

それでは次第に従いまして進めてまいります。

まず初めに、発言者の皆様の御紹介についてでございますけれども、1人1人御紹介をしたいところではございますが、お時間に限りがございますので、資料にて配付させていただいております。こちらで紹介に代えさせていただきます。御了解願います。

それでは、ここより知事とのフリートークを行ってまいりたいと思います。

なるべく皆様に平等にですね、御発言をいただきたいと思っておりますので、お1人様3分程度で、中部地域の課題と感じていることなどにつきまして、知事への御意見、それから御提言等を頂戴できればというふうに思います。

それでは、私の方から御指名をさせていただきます。

最初にA様、お願いをいたします。

(A氏)

Aと申します。よろしくお願ひいたします。

私の方からは主に2点お話しさせていただきたく存じます。

1点目は大学生の貧困に関してということで、例えばこういう場所に出たりとか、社会人の方とお話しさせていただく機会が今まで何度かあったんですけど、その際に大学生は社会に出る前にいろいろ時間があるだろうから、経験を積むといいよっておっしゃる方が多いんですけども、一大学生として考えると、ちょっとそれをやるには厳しい現実があるかもなあと思うところがありまして、例えば私、今3年生なので、これからというかだんだん就職活動が始まる中で、それにも交通費であったりとか、あとは服も整えなきゃいけないですし、大学生活以外でかかるお金というのもいろいろあって、一人暮らしをするだけでもすごくお金がかかったりとか、そんな中で例えば奨学金のために貯金をしなきゃだとか、アルバイトをする学生がすごく多くて、もう学校が終わってから深夜までずっとアルバイトをしているみたいな私の友人にもいるんですけど、そうすると朝に起きて学校に行って、学校が終わってアルバイトをして帰って寝て、それで生活費を稼ぐだけで精一杯みたいな人もいますので、ちょっと課外活動とか、そういう余裕ができるぐらいに大学生が安心して勉強して経験を積むための支援を県として検討していただけると嬉しいなと思いました。

2点目が地域の交通に関してなんですけれども、最近、高齢者何歳以上になったら免許返納をしましょうみたいなPRされているかと思うんですけども、それはそれ自体はとっても重要なことだと思うんですけども、それによって生活に支障が出る人もいないかなと思うところがありました。先日、私が乗ろうとしたバス停で一緒に居合わせたおばあちゃんと少しお話しさせていただく機会があったんですけど、そのときに「免許返納したから、もうおまちに行くのに車に乗れないからバスに乗らないと」っておっしゃっていたんですね。

そうすると1時間、私の最寄りのバス停は1時間に1本しかなくて、日常生活に使うにはちょっと不便よねみたいな話をする機会がありまして、私達学生の立場でも考えると、例えば通学に行くときに、朝の時間に間に合うために始発に乗らなくてはいけない人も結構多くて、社会人の方、そのおばあさん世代の方、高齢者の方と、あの日常的な利用もそうですし、私達大学生の通学とかで使うのにももう少しバスであったり、他の公共交通機関の利用の利便性が高まると嬉しいかなと思います。以上です。ありがとうございます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。次はB様お願いをいたします。

(B氏)

Bでございます。よろしくお願いいたします。

年齢が73歳になりまして高齢者の部類でございますが、県だけの問題ではございませんが、少子高齢化、話題になってもうずいぶん経ちますが、我々高齢者も若い方にあまり頼ることなく、しっかり自立していかなければならないと思うんですけども、いわゆる高齢者は年金がやっぱ一つの頼りになると思うんですが、この年金に対してですね、非常に間違った解釈をされてる方がたくさんいるんですね。高齢者の中でもですね、いわゆる自営業者の国民年金だけの方と、それからいわゆる厚生年金、共済年金の方がいらっしゃるわけですが、あの国民年金の方の中にはですね、不公平だっという方が結構いらっしゃるわけですね。

だけど、決して不公平ではなくて、掛け金の違いなんですね。

それはあんまりよく理解してらっしゃらないかと思って、それでいわゆる労使折半ということで、お勤めの方は自分の給料から天引きされるけど同じ額を経営者側も払って、倍の額になって掛けているわけですよ。そういったことを全くお知りにならない方がたくさんいて、いわゆる専業主婦の方、3号保険者というのですかね。その方なんかをいわゆる主婦の方も立派な家事労働してるわけだから、みんなで支え合おうということで、掛金はみんなで負担してってということが趣旨だと思うんですが、これも存じ上げない方がいて、サラリーマンの方の中には「女房の年金は俺の給料から天引きされてるんだ」と言う方もいらっしゃるんですよ。

だから不公平だとか、あるいはこれからの年金制度っていうのを考えるときにですね、やはり中学生ぐらいから子供もきちっと年金制度っていうのはどういうものなんだっていうことを理解をしてもらっていく。それであの不公平だったら、国民年金と厚生年金、共済年金との格差をどうやって埋めていくとかですね、そういったことをきちっとした知識の中からはいろいろ改善策を考えていくっていうことが必要だと思っておりまして、本当に我々と同じような年代でもあれ勘違いしてる、知識がちょっとおかしい

方向行ってるなって方がたくさんいるもんで、そういった形の教育っていうふうに言う
と大げさかもしれませんが、そういったものを中学生ぐらいからそういうところをきち
っと理解をしてもらうということが大事じゃないかなと思って、県内の問題ではござい
ませんが、思っております。以上です。ありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

次にC様、お願いいたします。

(C氏)

はい。Cでございます。

私は元々兵庫県の生まれで、静岡県に丸18年、ちょうど19年になるんですが、すご
く静岡って、静岡の方には分からないかも分かんないですが、すごくポテンシャルのある
県で、もっとできるんじゃないかっていうのが私の感想です。打ち合わせのときにも
いろいろと考えたんですけども、この間調べましたら、合ってるかどうかちょっと分か
らないんですけど、ホームページ見ただけなのであれなんですけど、小・中学校の給食費
無償化ですね、確か4自治体しかないですね。それも小学校だけか中学校かもちょっと
分かんなかったんですね。

人口が静岡県は減ってます。静岡市に至っても減ってます。

結局、今から出生率を増やすっていうのはなかなか難しい話になるので、流出入口よ
り流入させるっていう一つの手立てとしてですね、やはりお子様のいらっしゃる家族で、
静岡県に移住をしていただく一つの手立てとしてやっぱり給食の無償化っていうの
が大きいんじゃないかなと。教育費の無償化は国レベルでも言ってますけども、本来基
礎自治体でやることなんでしょうけども、やっぱり県としても応援をしていただいて、す
れば、お子様持つてる方とかこれから静岡に住んでいこうっていう方にとっては朗報に
なるんじゃないかなあと思うので、ぜひ推し進めていただきたいなと。

たまたまテレビで見てたら、難波市長は検討していないって言ってましたけど、はい。

政令指定都市なんで、なかなか県には関係ないのかもしれないですけど、でも県とし
て、やっぱり大きいのは静岡市と浜松市なので、この辺でやっぱり人口を増やしてい
くためにも、ぜひ推進していただきたいなということでお願いいたします。

以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

次にD様お願いいたします。

(D氏)

はい。島田市のDといいます。

普段はミツバチの世話をして、蜂蜜を収穫して、それで生計を立てています。普段、山の中とか田舎ですね、田舎にいるんですけども、人がやっぱり減ってきています。県内からの流出もあると思うんですけども、集落から市街地への流出も、若い子育て世代は、集落に家を建てずに市街地の分譲地に家を建てているっていう現状です。消防団もやってるんですけども、自分のところは大体15年ぐらいは高卒でやることになって、隣の集落なんかは15年終わった後、もう1回下から入りなおして、そんな状況です。

自分、山の中にいるんですけども、山手の効率の悪い圃場、茶畑がどんどん荒れていて、ここ10年で集落の中にもかなりカモシカとかイノシシとか、かなり入ってくるようになりました。荒れていく山とか見ていると、なんかこれ、自分の住んでる集落もこういう感じになってくんだろかなみたいに感じられて、どうなっちゃうのかなっていうところで、何か県の方でも山間部とか、そういうところの人口の維持とか、何かそういうアクションとかあったらいいなと思ってます。

あと農地ですよ、農地保全。これから10年20年。どういうふうになっていくんだろっていうところがビジョンとかあったら、それをお聞きしたいと思って今日来ました。

以上です。

(望月広聴広報課長)

はい、ありがとうございます。

それでは、ここで一度知事からのコメントをいただきたいと思います。

(知事)

はい。Aさんから大学生の問題についてと、地域交通のお話いただきました。

大学に通っていてもですね、なかなか経済的困窮ですね、大変だという学生さんがいるのはこれは私の時代にもそうでした。

やっぱり僕もずっとアルバイトやってましたけれど、とてもアルバイトしないと生活できませんでしたので、そういう中で四年間学生生活を送るということをやってきました。

ただ本当に大変な方もいるので、国が高等教育の修学支援新制度というのをスタートさせまして、その世帯の所得に応じて、授業料の減免でありますとか、あるいは給付型の奨学金、これは返さなくていいやつですね。

そういうものの支援を受けられるようになってきてますので、本当に大変な方にですね、そういう制度をぜひ活用していただきたいなというふうに思いますし、またいろいろな地域の中ではですね、大学間のいろんな交流の中で単位を取りやすくしたりですね、

あるいは地域のことをいろいろ学ぶような仕組みを、県として取り組んでまして、ふじのくに地域・大学コンソーシアムと呼んでいるんですけれど、いろんなそういう仕組みがございますのでぜひ御活用いただきたいというふうに思います。

公共交通の問題は本当にこれはもう、全国的な問題で、やっぱり人口が減少していく中で特に中山間地域のようなところはですね、人口が減るとですね、いわゆる路線バスみたいのは維持できないんで、どんどんそういうのが減っていくと。もう一つはですね、バス会社やタクシー会社もそうですけども、いわゆる運転手さん、ドライバーさんがどんどん減ってるんですね。この確保が実に大変で、つまりいろんな理由でですね、どんどん公共交通が空白になってくる地域が出てきているんですね。

だから私は知事になる前、浜松市長を16年やってきましたけれども、浜松市というのは大合併しまして、ずっと山奥まで浜松市なんですね。伊豆半島よりも実は浜松市は面積大きいですよ。地域面積の約半分ぐらいが過疎の指定を受けている地域で、もうどんどん公共交通がなくなると。じゃあこれどうすんだと。ドライバーはもういないんでね、例えば税金でバスをチャーターして走らすってのは、なかなかそういうのも持続可能性がないんで、もう最終的には住民が住民を支え合う訳ですね。いわゆる共助型交通、これしかないなというふうに思ひまして、そういう共有型交通をその仕組みを作ろうじゃないかということいろいろ取り組んでまいりました。

そのためにはいろいろ国の規制を変えていかなきゃいけないんで、こういう問題って実は浜松だけじゃなくて、全国の自治体が同じような課題を抱えてますんで、そういう首長さんと一緒にですね、国に働きかけをして、今国土交通省ですね、これは非常に大きな問題だということで、最近、ライドシェアという名前ですね、マスコミ等の中でいろいろ話題になってますけれども、このライドシェアという大きな枠組みの中で、特に自治体ライドシェアと言われるんですが、公共交通がないような地域、こういう地域には規制を緩和して、共助型の交通システムを作ろうということで、実は既に浜松市とか東伊豆とか、県内でも事業が始まってる所ありますし、県としてこれ全部の地域に入れていきたいと。で、ライドシェアの先進県にしていこうということで、今地域公共交通の検討会の中に、ライドシェア専門部会を作りまして、県内の全35市町に入っただいてですね、あとはバス事業者とかタクシー事業者の皆さんにも入っただいて、県全域の検討会を始めてますけども、新しいやっぱり知恵を使っていけないと、なかなかこの公共交通の問題は解決できないということでございます。

いろいろまた県としても頑張っていきたいというふうに思います。

それから、Bさんから年金の問題提起がありました。

私は国会議員を5年やりましたけれども、国会の中でも常に大問題で、これから持続可能な年金制度をどう構築していくのかと。

ただ今のおっしゃるように国民年金のですね、基礎年金としてはですね、非常に脆弱

なので、もうちょっとちゃんと生活できるような、新たな基礎年金を作ろうという話もあるんですけども、そこにどうやって移行させるかとかですね、なかなか制度的な問題もあって、一気に年金のですね、改革するってのは難しい。

これ非常にセンシティブな政治課題になっておりますし、今でも国会の中では、当然この年金の問題とかいろいろ議論されているわけでございます。で、おっしゃられるように国民年金と厚生年金、大きくその違いがございますし、その辺の仕組みがですね、よく理解されてない部分もあるので、若い頃からやっぱりこういう年金を含めてですね、社会保障とか、あるいは税の仕組みですね、こういったものをですね、ちゃんと教育指導というのは非常に大事だと思いますので、当然その中学生くらいからですね、社会保障制度について、知る機会を設けていくというのは、私も大変重要だというふうに思っております。

また教育委員会の方にも伝えておきたいというふうに思います。

それから、Cさんから給食費の問題出ましたけれども、これもですね、実は自治体の中で今非常に大きな課題になっています。非常に財政的に豊かなところはですね、もうどんどんいわゆるサービス合戦で給食費無償化をやるんですけども、本当にあの財政的に厳しいところはですね、なかなかこれ、単独の自治体で給食費無償化、かなりの財源が必要だもんですから、県全体でやるっていうのは、膨大なですね、それじゃこの財源をどうするかっていう問題あるんで、こういうものはあんまり地域間で格差が出ては困りますんで、実は全国知事会なんかもですね、これは国の課題として、やるなら国共通としてですね、給食無償化について取り組んでほしいということで、ずっと国に対して提言をしております、当然国の方でもそうした検討が始まっていますけども、先ほど言ったようにこれ、公平性の問題とか、国と地方の役割分担をどうするかとか、いろいろ制度上のまだ解決しなきゃいけない課題がございますので、引き続き国の動向を注視しながらですね、我々も考えていきたいというふうに思っております。

それから、Dさんからは、集落の過疎の問題と農地の保全の問題ですね、先ほど言ったように、私は浜松で同じような課題認識をずっと持ってたんで、ちょうど浜松の場合は、都市部と中山間地域が一緒になったんでね、僕が考えたのは、とにかくまず交流することによって、いわゆる交流人口を増やしていこうと。それによって、いわゆる中山間地域ですね、活性化に繋げていこうということで、浜松の町場とですね、それから中山間地域、いろんな交流事業を行うことによって、人の流れを作っていこうと、こういうことやってたんですね。

実際にはなかなかこの辺の問題は難しいと思いますけども、県がやっぱりその辺は調整役になってですね、そういう取組が必要であると。なかなかどんどん移住させて人口を増やすっていうのは、今のこの御時世、非常に厳しいんで、むしろ交流人口を増やす

ことの方がですね、私は重要だというふうに思ってますし、農地の問題はですね、地域就労者を増やすための取組ってのは、今基礎自治体でもやっていますし、我々も市町と一緒に取り組んでおりますので、できるだけ農業に新規参入していただければですね、新しい担い手作りというものをですね、今後もしっかりやっていきたいなというふうに思っております。

なかなか一気に増えませんが、最近農業の魅力っていうのは、若い人は理解する人も増えてきてますんで。やっぱり何て言いますかね、Dさんが言われるような、いわゆる条件不利地域ですね、中山間地域の農地をどうするかっていうのは、これまたちょっと悩ましい問題かと思えます。いわゆるある程度の面積があるところではですね、かなり効率的なスマート農業なんかですね、稼げる農業ができるようになってきてますんで、新規就農者も増えていきますけども、いわゆる中山間地域ではなかなかそういう農業ができない地域であると、やっぱり課題かなというふうに思っております。私からは以上でございます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

それでは引き続きお伺いをしてまいりたいと思います。

それではE様お願いいたします。

(E氏)

Eです。お茶屋の二代目です。よろしくお願いします。

今日は二つのこととお話したいと思っています。

一つは、大井川焼津藤枝スマートインターチェンジ周辺のまちづくりへのサポートです。このインターチェンジは旧大井川町時代から30年にわたって地域の活性化のために誘致活動して、ようやく平成28年に供用が開始となりました。そしてこのまち周辺の活性化に関しては、例えば地域の住民の人たちでどんなものにしていったらいいかという理解を深めながら、特に土地の利用ですので農家の方もいらっしゃるんで、その気持ちを大切にしながら理解を深めているところです。

ところがこの地域っていうのは市街化調整区域でして、またあの農業の振興地域なので、土地の利用が本当に著しく制限されていて困っています。

ちょっと新聞に読んだところだと、静岡県の都市計画マスタープランでも、商業や住宅は拡大抑制方針と、僕らの希望と反するようなことも書かれていたんで、私達はぜひこのスマートインターができたことによって、すごく活性化のある魅力の街にしたいと、またこの場所は富士山静岡空港や志太中央幹線からアクセスがすごく良いので、この地域ならず静岡県全体でもね、活性化の起爆剤となる場所だと思ってるので、ぜひこれからいろいろ私達の希望が出てくるので、その障害となるものを県の方で一つ一つ

柔軟にそして良いアイデアいただきながら、解除していきたい、で、この地域を盛り上げていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

そして二つ目は、志太田中川、泉川って県の河川が、県管理の河川があるんですけどもそのことについてです。

実は私が住んでる上新田地区っていうのは、田中川の河川をみんなで土手とかを草刈ったり、草刈り機でやるっていう、自分たちがやるところです。

ところが何年前、草刈り機で、近くにいた女性の方を怪我させちゃったんですね。当然それからもうずっと草刈りが行われていません。

そうなってくるとどうなったかっていうと、田中川の土手やら、法面がもう草ぼうぼう、草ならまだ良いんですけども、雑木が生えちゃって、もうどうしようもない状態で本当に毎日見ると、万が一大雨降ったら、あふれちゃうんじゃないかっていう心配が住民全員がしています。

新聞に、それこそまた読んだんですけども、県の方としては20年を掛けて、その志太田中川の方の整備をしていくよって書いてあったんですけど、何と20年じゃ遅すぎるんですよ。いろんな制約があるかと思えますけども、一刻も早くそのスピードを進めていただいて、今ある危険、いわゆる線状降水帯とかいろんな危険があるので、いち早くその管理完成を進めていただきたいというのが住民の総意でもありますし、またその完成を待っている間に草ぼうぼう、また生えてきてしまったら困るので、その管理、河川の管理は県だと思うので、ぜひとも県の方にその管理の方、手入れの方をしっかりとっていただきたいというお願いです。

以上二つのお願いばかりになって申し訳ないんですけども、心配含めてお話しさせていただきました。よろしくお願いします。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは、次にF様お願いいたします。

(F氏)

はい。Fです。

私は作曲家として25年間やってきています。すごく古い曲なんですけども、長く使っていただいている有名な曲があるので、一曲歌わせてください。

「(歌) DMMドットCOM」、これ私の作品です。よろしくお願いします。覚えて帰ってください。

私は静岡市の用宗で育ちまして、その後大学は新幹線通学で東京の大学に通いました。

コロナがあっても静岡の町に帰ってきたいっていう理由をつけたくて、藤枝の地域おこし協力隊という募集に応募して、3年間藤枝で地域おこし協力隊をやっている

ました。今現在は東京にもアトリエがあるので、東京と藤枝を行き来したり、用宗にももちろん帰ったり、あとは滋賀県や佐賀県にも拠点があるので、全国をうろうろして楽しんで暮らしております。

そんな中で私がやっていることは音楽家らしく、文化芸術の支援をやっています。静岡県は世界的にも情報発信している演劇があったり、音楽もすごく大きなブランドがあったりするんですけども、コロナのときに音楽って本当に人間にとって必要だったの、みたいな問いかけがあったときに、やっぱり原始の世界から音楽って人間にとってとても大事だった、音楽だけじゃなくていろんなアートが大事だっていうのもすごく皆さんも考えてもらえる時間になったと思うんです。

それで大きなブランドなどももちろん感覚を刺激する部分ですごく大事なんですけれども、アートとかって、本当は誰にでも制限なく、どんな人でも関われる本当に人間らしい分かりやすいものだと思っていて、地域おこし協力隊をやっていて、地域の人たちといっぱい喋ってるときに、こんなに身近にこんなにいろんな人と喋れるツールがあるんだねということにすごく気づいて、私はそういった一般の方にとっての文化芸術の支援というものをやっていきたいなと思っています。

なので、大きな動きももちろん行政的には数字とかそういうのがあると思うんですけれども、地域の人たちが関わっている大事な文化活動みたいなものに目を向けていただけたらなと思っています。

あともう一つ、地域おこし協力隊の県のネットワークの役員をさせていただいております。協力隊は移住者であったり、IターンやUターンの方たちがこの新しく自分の移り住んだ町で、自分らしく生きかたを見つけながら何かの事業を残していくという制度なんですけれども、まだまだこの制度がどんなふうに活用されてるかっていうのが浸透しないように思います。本当に1人1人一生懸命頑張っているし、いろんな制度が成熟されてない中、試行錯誤したり、行政の方と話すのを、一生懸命やってるっていうのも、みんなで手伝ってネットワーク作っていこうよ、っていう動きがあります。それをもうちょっとみんなにも知ってほしいなと思っていて宣伝をしちゃいますが、11月27日に藤枝市で静岡県の協力隊ネットワークの交流会をやります。ぜひ一般の方にも入っていただけるような、協力隊って何してるんだろうなみたいなPRの場ですので、ぜひお時間あったら遊びに来てください。

あとですね、中部の話になるんですけど、私は静岡の用宗で育って、藤枝市の協力隊をやった時に、中部って本当に、真ん中に日本坂の山があるだけで、こんなに文化って違うんだなっていうのは、用宗と藤枝を比べてすごく思いました。

もうちょっと中部が、ほんの隣の山を越えただけでこんなに豊かで違うものがあるんだっていうのを、お互いが交流し合えたらいいなっていうのも思います。

この後、人口減少があると思うんですけども、あんまり数字とかを追いかけて過ぎるというよりは、ぶっちゃけどこかからの人口をどこかに移すとか、どこかから人口を持つ

てくるとかっていう取り合いのような議論ではなくて、そこに暮らす人たちがこの場所がいいじゃないって、私達この場所が豊かであればいいよって思えるような、そんな数字を追いかけるものではなくて、何か音楽とか文化とかもそうなんですけどそういうツールを使って、心豊かなもちろん静岡県らしい温かくて、人が本当に温かいっていうのは本当にいいから、私も薦めたいし、なんか静岡県が幸せだなってみんなが思えるような、そういうのが数値化できたらいいなと思ってます。

よろしくお願いします。ありがとうございます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それではG様お願いいたします。

(G氏)

はい。現在、都内の大学の方に通っているんですけども、昨年のミスユニバース日本大会に出場させていただき、グランプリを取ることができて、今回牧之原市の観光大使として、ここに出席させていただきました。

現在、私自身、大学進学で都内に出た経験があるんですけども、やはり静岡を出たことで、外から見て気づく静岡の魅力、多様な文化だったり、食文化の豊かさ、自然環境や人と人の距離の近さや温かさなどを改めて感じました。それにあたって私は、若者の流出問題についてなんですけれども、県内外で若者がまずは集まる、集まれるようなイベント、プロスポーツの試合や、イベントを大きくして充実させていくべきではないかなと考えています。やはり、県内外から人が静岡に来てもらうことで、静岡を實際に来て知っていただくことで、静岡をわくわくするところであったりとか、若者が活躍できるというところを、印象を変えていくことが必要だと思います。

実際に都内に出てみて、日常生活の充実さであったり、先ほどもお話にあったと思うんですけども、公共交通の良さがすごく都内で感じました。

実際に静岡に帰ってみてみると、公共交通の不便さっていうのはやはり私は牧之原市なので、市内や浜松市や静岡市に出るのに、すごく車がないと不便だなと感じてしまう点がとても大きいです。

実際に友人ともお話をしてみたんですけども、都内の方が自分のやりたいことが多いという意見があったんですけども、やはり静岡でも若者を増やすために、その人1人1人目的が変わってくると思うんですけど、その人が活躍できる場っていうのをもっと増やしていくべきだと思います。

以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは今までのお三方に対しまして知事からコメントをお願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございました。

Eさんからは、大井川のスマートインターの周辺の整備の問題ですね。

やっぱり土地利用がネックになると。市街化調整区域が多くていろいろ制約があるという、私も実にそれはよくわかります。

市長時代に、もうほとんど工場用地がなくなって、企業がどんどん流出をしてる中で、何とかそれを止めなきゃいけないということで、国の特区制度を活用してですね、三方原都田地区という所ですけども、まずインター周辺とかあるいは大きなバイパス周辺とか、そういう所をですね、特例として、立地誘導地域として認めてもらいまして、そこにどんどん企業誘致をして、今、実は三方原都田地区は、浜松のものづくりのメッカになったですね。

企業立地の用地として、市街化調整区域を活用したわけですけども、ここはやっぱりインター周辺とか、全て乱開発するのは駄目でしょうけれども、いわゆる非常に条件の有利な地域はですね、私はもっと土地利用はその地元の人達のね、思いに沿って柔軟にした方がいいと、これはもう私もそういう持論として、そういうふうに行動してきたので、ぜひそこはですね、しっかり県としても、皆さんのですね、思いを受けて、県ができることはしっかりやっていきたいというふうに思います。

それから河川整備と草刈ですね。

これはね、なかなか全県で実はですね、同じような河川整備、山のように現場抱えてまして、これを今、限られた資金と、建設業界なんかもですね、限られた人数で、特定の地域だけ一気にというのはなかなか難しいもんですから、やっぱり全県的に、計画的に河川整備を進めていかなきゃいけないということで、ある程度そこはですね、御理解いただきたいなど。

それから草刈りについてもですね、これも全県これやるとなるとですね、大変なことでありますので、一応河川パトロール隊というのがありまして、ここはさすがに早くやらなきゃいけないっていう所ですね、緊急度に応じて、伐採なんかやっておりますので、引き続きそうした形でですね、適正な河川管理に努めていきたいというふうに思います。

それからFさんはなかなか活動的なんですね、多拠点居住で。これから新しい生き方として大いにありかなと。私も去年は二拠点居住で、地元の浜松と東京ですね、東京にも事務所を構えまして、行ったり来たりをしてましたけれども、これからもうそういう生き方が当たり前の時代なんで、非常に時代に即した取組かなというふうに思いましたし、あの文化の支援もですね、大きな文化イベントだけじゃなくて、市民に寄り添った

ですね、それぞれが行ってる文化活動の支援とかそういうものが非常に大事だと、そっちの方がむしろ大事なんじゃないかなと、私もそういうふうに思います。

県としてもそうしたことをですね、御支援できるような、これはどちらかというとも市町の方が住民に寄り添ったサービスをしてますので、そういった市町の取組をですね、支援できるような形で何か考えればというふうに思います。

それから地域おこし協力隊、これもずいぶんと首長時代、市長時代は活用させていただきました。広大な中山間地域、やはり地域おこし協力隊の皆さんが、そこに行っていたと、ものすごく活性化するんですね。そして多くがそこに定住していただいたので、今重要な地域の担い手としてがんばっていただいているので、こういう地域おこし協力隊の役割とかですね、もっと知ってもらうのが私もいいと思いますし、横の繋がりのネットワーク立ち上げのときから御支援いただけてますけれども、こうしたネットワークの活性化についてもですね、県としてしっかり取り組んでいきたいとします。

それからGさんから静岡県、静岡県でも意外とね、ものすごく今人気なんですね。

移住ナンバーワンが今静岡県ですし、先ほどのお話ではありませんけども二拠点居住にするにはこんな良いところはないと私自身もそう思ってますし、僕も実は東京生活長かったです。20年ぐらい東京で暮らしてまして、地元戻ったんですけども、むしろ僕は何ていうかもう無茶苦茶混んでいる地下鉄だとか、人混みだとかは、逆にものすごい当時ストレスだったんですね。

で、やっぱり地元戻ったら、そうした満員電車もありませんし、むしろ非常に自然が豊かで快適な空間で日々過ごせるし、一定の都市機能があれば、ほとんど不自由ないわけですよ。東京でなければ、あの静岡とか例えば浜松とか、大きな都市自体がですね、ほぼ東京にあるような都市機能ってのは、ある程度完備してるので、むしろ今そういうところの方が、これからの人たちにとってはですね、暮らしやすいところではないかなということでは実は今、静岡県ってのは首都圏からの移住の希望先ナンバーワンになってますので、もっともっとですね、そうした静岡県の良さというのを発信をして、魅力的な地域でありますよということですね、皆さんに来ていただきたいというふうに思っております。

それから、Fさんから先ほど、人口減の話をお話いただいたんですけども、私も全くそのとおりだと思うんですね。

減っていく人口が何人とか、何人取るか取られるか争っても仕方ないんで、むしろ人口がもうこの出生率で言いますと、当然日本自体はですね、もうこれから人口絶対減るんですね、これは。

だから人口が少々減っても、活力ある地域社会をどう作っていくかっていうことを考えていった方がいいと思いますし、そのときに何か客観的な指標と同時にですね、いわ

ゆるウェルビーイングっていう最近、非常に世界的にも注目をされてる指標、これはいわゆる県民の皆さんが、主観的にどれだけ幸福感を感じているか、幸福度を感じているかということ色々な施策の基礎に据えていこうということで、今、私どもは「幸福度日本一の静岡県を作ろう」というスローガンのもとにですね、取組みしてますけども、今後このウェルビーイングという指標をですね、県民の皆さんの幸福感あるいは満足感がどれだけ向上したかっていうことを、大事にしていきたいというふうに思っております。

気持ちは一緒でございますので。大体そんなところですかね。

以上で私からの感想とさせていただきます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それでは残りお二人いらっしゃいますので、まずH様の方からお願いをいたします。

(H氏)

はい、失礼いたします。

高齢化率の増大に伴いまして、私ども吉田町ではコミュニティバスを、平成28年頃から提案がありまして、令和5年度10月より1年間、新しい交通手段として、コミュニティカー、6人乗りなんですけども、“ぎゅっと”カーという実証実験を開始をしました。

その開始した結果ですね、令和6年度高齢者の通う移動手段、子供の移動における効果的活用、町外からの来訪者による利用、専門性の評価をしまして、9月末の登録者数が980人。ちなみに手前どもの吉田町は2万9千人でございますけども、そのうちの980人が登録をしていただきました。

利用者は、登録者の中の338名、利用件数が3,901回となっております。なお、この“ぎゅっと”カーの停留所ですけれども、町内は70平方kmありますけども、その中に609箇所の停留所を設けてございます。10月末には登録者数も1,000人を超えることになりました。

しかしながら問題としまして、車椅子の利用者の方が利用できないということが一点。それから停留所が遠いとの指摘もあり、今後検討しなくてはならない課題も山積しております。現状はですね、停留所間は200m間隔くらいに設定しておりますけども、これはもうちょっと短くしないと高齢者の方が大変なのかなということも考えております。

2番目ですけども、将来的に交通拠点としまして、吉田インターを考慮しておるんですけども、地震・津波対策の一環として、川尻海岸・住吉海岸に、防潮堤の計画、まあ川尻海岸の防潮堤はもう既に完成をしておりますが、その延長として住吉海岸も防潮堤の

計画には入っておりますので、その海岸線を中心に避難タワーが全部で13基ございませぬけども、それだけでは若干不安もあるんですけども、この防潮堤をにぎわい広場としての構想も町としてはあるようなんですけども、この間の交通手段として、LRT、要は路面電車なんですけれども、次世代型路面電車の導入等も町としては検討していきたいと思っておりますけれども、これに対して、県の方でも検討していただけるとよろしいんじゃないかなと思います。

3番目になりますけれども、リニア新幹線に関しまして、本県のみならず、ここに集の皆さんも大井川の流域にお住まいの方がほとんどですので、当町の養鰻業は大正11年に起源を發しまして、大井川の伏流水のお陰で養鰻が盛んでありましたが、時代の流れの中で養鰻業は衰退をしており、現在最盛期の10分の1ぐらいの養鰻池が残っております。養鰻に代わり、大井川流域には水を必要とする大手企業の進出が目覚ましく、また宅地造成による住宅の増加と、町民並びに企業にとってなくてはならない水でありますので、将来にわたり影響は出ないことを切望しております。

もう一つ長くなって申し訳ないですけども、防災対策のうち、最終避難所の指定を吉田特別支援学校が指定されておりますけれども、吉田特別支援学校の体育館には空調設備がございません。

私どもも、もう何回か避難指示が出たときに支援学校の体育館に避難をしましたけれども、避難してくる方の方から、ここは暑いね寒いねという御意見がありましたので、避難所であるべきところはやはり空調設備は最低限の設備じゃないかなと思いますので、その辺の対応も県立高校ですので県の方で対応をお願いできれば大変ありがたいと思います。

最後になりますけれども、民生委員、児童委員および保護司等の選任に非常に苦慮しております。なぜかといいますと、先ほど来出ております高齢化による、なり手の高齢化、特に民生委員、児童委員については上限が75歳というふうに決まっておりますけれども、現状ですと70歳前後まで働く方が多くなりまして、そういう中で若い人を選ぶということに大変苦慮しております。その点について県の方、考えがございましたらまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それではI様、お願ひいたします。

(I氏)

はじめまして、Iと申します。アメリカのカリフォルニア州のヨセミテ国立公園の出身で、10年前日本に來ました。牧之原のALT(外国語指導助手)でした。

御前崎中学校とか白羽小とかいろいろなところを教えてくださいました。その後で、旦那の仕事で川崎市に移住しました。2年前、静岡の川根本町に戻りました。川根本町に移住しました。ゲストハウスを始めました。

私まだ日本語勉強中だから間違っているは多いかもしれない。御協力お願いします。

町にとって直面している課題は、1 交通手段、2 地域の自然資源の保護、大井川と今残る原生林、3 移住手当だと思います。

最初1から行きます。

1、交通の問題。今（大井川）鉄道は遮断され、金谷・島田・川根本町方面から町へ行けるバスの本数が少ないと思います。バスの運行情報がインターネット上にアップされないため、町外から来た人が道を探すのが難しいと思います。こちらは町の役場と交渉して改善していこうとしてます。

交通の便の改善、観光客や移住を考えている人が利用しやすいように交通の便やアクセスを改善してほしいです。

2番目、自然の保護。川の維持が心配です。私の出身のヨセミテ国立公園は自然を守っている所で、川根本町はそれに似ていると思います。私の前に住んでいた牧之原と、今の川根本町をつなぐ大井川は、その流域に住む人たちの命の水だと思います。この地域の生命線である川は守らなければならないと思います。

この流れに影響を与えるような機会は、この地域の観光、農業、生活に大きな支障をもたらす可能性がありますので、ぜひ県は引き続き守ってほしいです。

この地域にもっと自生の草木を植えてほしい。人口減少もあるが、山間部がスギ山になって食糧不足のため、動物たちが農場に移動している。自生地が増えれば、動物たちが農場を荒らさないようになる。

最後3番目、移住手当。私と旦那は静岡に移住したとき、神奈川県川崎市から来ました。静岡は立地がすごく良く、自然豊かなので、比較的に関東圏から移住しやすい町だと思いますが、東京23区都民のみの移住手当ができなかったのも、その辺を見直すとハードルが下がると思います。

私からは以上です。

（望月広聴広報課長）

ありがとうございました。

それでは知事の方から、御発言お願いいたします。

（知事）

はい、ありがとうございました。

Hさんからはですね、四つの御意見をいただきました。

コミュニティバス、昨日実は私も吉田町の方にお邪魔しまして、吉田町は本当にいろ

んなですね、取組が進んでるなということをごさね、実感しました。この後出てくる防潮堤の問題もそうですけども、コミュニティバスを今、吉田町の方でですね、試験運行されてるということでございますので、ぜひですね、その状況進んで本格運行になったときにはですね、運行状況によりまして、県でもですね、いろんな支援の仕組みがございますので、またお手伝いできる場所はお手伝いしていきたいというふうに思います。

それから防潮堤の問題ですね。住吉地区につきましては、今、国と県とですね、そして町が一緒になってですね、しっかりと検討を進めてこれからも早期にですね、完成していくように進めていきたいというふうに思っております。

避難タワーのお話もございましたけれども、本当にたくさんですね、避難タワーが常備されていて、かなり避難計画、避難体制が進んでいるなということも感じました。

LRT等の新交通につきましてはですね、町の検討状況を見ながら、県としても相談があれば応じていきたいというふうに思います。

それからリニアの工事に伴う水の問題でございますが、これは私もずっと表明してるとおりですね、この大井川の水資源と、アルプスの自然環境、これをしっかり保全した上でですね、リニアを進めていくということで、今専門家の皆さんの間でですね出されたような色々な課題、3分野28項目ありますけれども、これをしっかりクリアをするということでJR東海と真摯な対話をしているところでございます。

水につきましても、JR東海から田代ダムの水を活用するという案が、流出する水とですね、それを補うということで、一応流域の御理解をいただいているところでございます。今同時にですね、ボーリング調査を行っておりますけども、順調に調査が進んでおりまして、特に今、大きな問題は出ておりませんので、引き続きですね、JR東海の調査の状況を我々としても注視しながらですね、必要に応じて指導していきたいというふうに思います。

それから吉田特別支援学校の体育館の問題ですけれども、なかなかね、その空調施設というのは大変厳しい、財政的にも難しい問題で、例えばスポットクーラーで対応するとか、その時々ですね、対応について柔軟に考えていきたいというふうに思います。

それから最後に民生委員、児童委員とあと保護司等ですね、なかなか定員が充足できないという問題、これは全国的にどの自治体でも抱えている課題でございますけれども、今一つの解決案として出ているのがですね、いわゆる定年延長というかですね、まだ元気でやれる方がですね、年齢で切れちゃってしまうという、そういう今状況がありますので、それをまだやれると、本人もやる気があるっていう場合はですね、さらにその今の年齢の枠を延長するという、私はそれが一番現実的ではないかなというふうに思っております。

それから、Iさんからは三ついただきました。バスのダイヤ情報、インターネット上にですね、ダイヤの情報がでないということでございますが、これそういったデータ

がオープンにされていないとですね、なかなかそうしたネット上ですね、情報を提供できる仕組みを作れませんので、今県の地域公共交通計画ではですね、令和10年度までに、全市町にですね、こうしたデータを整理して、ちゃんとこのネット上ですね、運行状況等が確認できるような体制を作っていこうと、今そういう形で計画を進めているところでございます。

それから大井川、川根本町の自然保護につきましては、しっかり県としても対応していきたいと思っておりますし、今県では森林（もり）づくり県民税というものをですね、県民の皆様からいただいておりますので、そうした財源を使ってですね、荒廃林等を再整備していくと。針葉樹と広葉樹をしっかりとですね、混合林にしてですね、多様性のある樹林を作っていく等の再整備をしてですね、自然がしっかり守られるようにしていきたいというふうに思っています。

それから移住の問題につきましては、この移住就業支援金制度は国が作った制度で、東京一極集中をですね、解消するための制度でございますので、国が指導的にやって、それに自治体が呼応していくというものでございますので、居住地の要件緩和等につきましてはですね、国の方がこれをですね、制度を見直していかなければいけませんので、また必要があれば国の方にも提言していきますし、国の動向を踏まえてですね、対応していきたいというふうに思っております。私からは以上でございます。

（望月広聴広報課長）

ありがとうございました。

今まで全ての方にこれで御発言をいただきましたけれども、何か補足をしたいというような方はいらっしゃいますでしょうか。

H様お願いいたします。

（H氏）

先ほども農振地区（農業振興地区）の話が出ましたけども、吉田町も農振地区が結構ありまして、その一つの解決が、津波あるいは地震等の災害のときにですね、台地の上にある農振地区も解放していただければいいかなと。

隣の牧之原市も同様なんですけども、牧之原市も吉田町も、台地の面積の方が平地よりも面積が大きいもんですから、台地の方の農振も外していただければ、災害のときにそちらに例えば移住をするということも当然考えられるんじゃないかなと思いますので、その辺もまた検討していただけるとありがたいと思いますけど。

（望月広聴広報課長）

ありがとうございます。

その他何かございますでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。

今までは皆様から地域の課題というふうに考えていらっしゃることを、フリートークという形でちょっと御発言をいただきました。まだ少しお時間がございますので、ここからは一つですね、私どもの方から、共通のテーマで、普段お感じになっていることを一言ずつお伺いできればというふうに考えております。

私どもの方ではですね、県政世論調査で毎年ですね、調査をさせていただいておりますが、皆様の方では、日々の暮らし向きという設問でお伺いをさせていただいております。

こうした日々の暮らし向きについてですね、現在皆様がお感じになっていることをできればですね、ちょっと時間が押してきてますので、一言ずつでちょっとお伺いできればなというふうに思います。

今度はE様の方からお願いをしてもよろしいですか。

(E氏)

日々の暮らし向きの話は、私はお茶屋なので、今日も（ペットボトルのお茶が）出てるんですけど、手間が掛かることも分かるんですが、葉っぱで飲むことが少ないので、ぜひこういうときに例えば、急須と湯飲みとお茶の小さいセットがあって、各々がこれを自分で入れてやるっていうスタイルを、ぜひ静岡県としては取ってほしいということを思っています。以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

(F氏)

私、多拠点で活動しておりますので、あっちの町ではこれが良かった、こっちの町ではこれが良かったっていう中でも、やっぱり静岡県で買って帰る果物や野菜が本当においしくて、東京に流通してないものとかも多くて、流通してなくてこちらに来れば手に入る特別なものっていう感覚なので、東京で市場が広がらなくてもいいんですけど、本当に私が今日静岡でこんなに良いもの買ったぞって思えるようなことが多いので、それをこっそりと発信していきたいなと思っています。いつもおいしいです。ありがとうございます。

(G氏)

私は幼児教育を専攻していて、今現在牧之原市の幼稚園だったり、小学校に講義をさせていただいているんですけども、夢の大切さや実現するためのことについて話をさせていただいています。

実際に日々の暮らし向きなんですけども、やっぱり静岡の良さを若者に伝えていくためにはSNSでの発信が大切だなと思っているので、私自身もSNSで牧之原市の良さであったり静岡県の良さを発信しているんですけども、これからもずっと続けていきたいなと思っております。

(H氏)

先日ですね、町の取材で、中学校の部活の話がたまたまありまして、そのときに私が申し上げたのは、子供中心じゃないんですよ。大人の考えで意見を言っちゃうから、話がまとまらないんじゃないんですかと。

あくまでも中学の部活、あるいは何て言いますか、その他のクラブチームがあるんですけども、子供の目線でもってものを考えてやらないと、子供のためにならないんじゃないですかということも申し上げましたけれども、やはり子供の目線でいろんなことを考えてやるのが子供の将来に何らかの形で役に立つんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

(望月広聴広報課長)

I様、お願いします。

(I氏)

私、ゲストハウスオーナーだから、なんか今オーバーツーリズムがすごい問題だと思います。東京、京都だけど、静岡もうちょっと海外にアピールしたいから、川根の良さ、榛原郡の良さを海外の人に伝えたいと思います。

今私のお客さんは8割ぐらい海外から来た人で、その前は大体東京とか京都から来るので、皆はここにもうちょっと住みたいと、もうちょっと時間使いたいと思いますから、その良さは皆さんにSNSとかネットで推したいと思います。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

まずここで一度切らせていただきまして、今、日々の暮らしの中で普段皆様がお感じになってるようなことを一言ずつ御発言いただきましたけれども、知事の方から何かの中で御感想いただくようなことがありましたら。

(知事)

本当ごもっともな御意見が多いんで、お茶ですね、ペットボトルじゃなくてリーフ茶でちゃんとお茶を入れて飲むという習慣をつけなきゃいけないということですね。ごもっともだと思います。

それからFさんからね、静岡は非常に野菜も果物もおいしいというお話が出ましたけれども、ここ本当に食材の宝庫だというふうに思ってまして、そうした新鮮な野菜や果物とまた海産物もそうですけども、静岡のそうしたですね、食の魅力をもっと発信をしていきたいと思います。

それから、Gさんからもですね、その静岡の良さをSNSで発信していきたいということで、ぜひまたよろしく願い申し上げます。

それから、Hさんから部活の話が出ましたけれども、本当子供目線で考えるというのは非常に重要だというふうに思います。ぜひそうした目線でのですね、いろんな暮らしの見直しというものも子供たちの意見を聞きながらね、やっていかなきゃいけないなというふうに思いました。

それから、Iさんからもオーバーツーリズムの問題が指摘されましたけれども、静岡県の中でもですね、やっぱりちょっとオーバーツーリズム、富士山なんかそうですけども、課題が出てるところありますので、やっぱり適正なですね、観光誘致というものが、改めて重要だなというふうに感じました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございます。

それでは、残り4人の方にお伺いをしてまいりたいと思います。

それではA様から。

(A氏)

私は地元の草薙という地域で、学生とか企業にお勤めの方、地域の方に自由に御利用いただけるスペースを運営する学生団体に入っておりまして、これチラシを持ってきたんですけど、先週、見えないかもしれないんですけど(職員がチラシを見えるように持つ) すいません、ありがとうございます。地域で活動されてる社会人の方を、学生が自分の興味・関心に応じて自分で依頼して講座を開いていただくというイベントを行いまして、昨日ちょうど私が担当でやっていたんですけども、やっぱりこういう機会があると、地域で活動されている方を学生がロールモデルとして、大学卒業しても地域に継続して働きたいなという気持ちが広がることにも繋がると思うので、自分たちもこれからやっていきたいなと思いますし、こういう機会が県内でどんどん広がっていったらいいなと思います。ありがとうございます。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

それではB様お願いします。

(B氏)

これは知事にお伺いすることではないと思いますし、答えが出る問題ではないと思うんですけども、私 1951 年、昭和 26 年生まれで 73 になりますが、私の子供の頃は本当に今の子供さんと比べると貧しくてですね、みんな継ぎ当てズボンを履いて、お母さんたちもみんなかっぱう着を着てあちこちに継ぎ当てがあって、それであの兄弟はみんな 6 人も 7 人もいて、それでタニシ取ったり、アメリカザリガニ取って食べてるのもいたし、遊ぶものなんてのはほとんどないので全部自分で山へ行って、あの木を持ってきて釘を拾って作ったりですね。そんな生活で今の子供さんと比べると本当雲泥の差なんですけれども、昔の方がよかったんじゃないかと思うことがこの頃ちょっと多くありましてですね、なんで昔の方がいいって感じるのかなあとと思いますけども、答えが出ない問題ですが、そんなことを考えながら残り少ない人生ですけど過ごしていきたいと思いません。

(広聴広報課長)

ありがとうございます。

ではC様、お願いいたします。

(C氏)

そうですね、暮らし向きで言えば、静岡市の家賃は、ばかほど高いですね。ありえない位ですね。この都市でこの規模だったら、ちょっと神戸の方が安いんじゃないかなって思うくらい高いです。

でもそれは需給の関係なので、知事にどうのこうの言ってもどうにもならないんですけども、もう 1 つだけ言えば、私も前職が医薬品関係だったんで、ドクターとか薬剤師の先生とお付き合いすることはあったんですけども、静岡県で医師会の大会とか学会ですね、学会とか、薬剤師会の全国大会やったら、静岡市ではできないんですね、その規模のがないんですよ。国際会議できるどころ、まずないと思います。こんなにあれなのに、浜松でしかできないんですよ。

もっと言えば、ホテルもないんですね。静岡で無理無理やってもいいけど、じゃあどこに泊まるのって言ったら、もうそれこそ沼津から浜松まで泊まるとこ全部探さないとできないくらいのもので、東静岡の方もちょこっと空いているような雰囲気もあるので、あの辺に、これは市長に言った方がいいかもわかんないですけど、やっぱりステータス、箱物がいいかどうかというのは別ですけど、やっぱり国際会議とかそういう大会ができる施設がないっていうのは、やっぱり静岡としてはちょっと寂しいかなというふうに思います。以上です。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。
それではD様、お願いします。

(D氏)

はい。暮らし向き、自分は自営でミツバチを飼い始めて来年10年目になります。おかげさまで島田市のはちみつ屋さんみたいな感じで、結構認知してもらって、ありがたいなと思っています。子供も3人育てて、休みの日は一緒に鬼ごっこしたりとか山に行ったりとか、最近ヒツジ2頭飼い始めて、めっちゃめっちゃ楽しく暮らしてて、ウェルビーイングっていう話が出たんですけど、あの僕はもう100点なんですよ。

もう本当に幸せに暮らしてて、なんか、それができるのも、中山間地域だからかなって思ってて、こんな楽しいというか、自由度の幅が広いので、もっともっと何か、遊び場として何か使って欲しいなって思ってます。

静岡の野菜はおいしいと思うんですけど、自分で作ったらもっとおいしいし、おいしいって言うか、幸せって言うか、嬉しいというか。なんかそういうふうにしてて、でもやっぱり分譲地の方とか行っちゃうと、そういうのもなかなかできなかったりとかするので、なんか自分は耕作放棄地でそういう自分で何かするみたいな、体験みたいなのが何かできないかなとずっと考えてます。何かやっていきたいなと思います。はい、以上です。

(望月広聴広報課長)

後半部分の皆様に御発言をいただきました。
知事、何かありましたら御発言をお願いします。

(知事)

はい。Aさんの取組ね、すごくいいと思います。学生の皆さんと社会人の皆さんがですね、繋がってロールモデルをですね、学生の皆さんがいろいろ知ってことで、もうとても大事なことだと思います。浜松でも学生ボランティアサークルってのありまして、そこがいろんなですね、同じような活動をしていますけれども、ぜひですね、継続してその活動を続けていただければというふうに思います

Bさんのお話は、僕も1957年生まれなんで、ほぼ同世代でございます。何となく分かりますけれども、なかなか何て答えていいのかわかりませんが、昔は昔、今は今って言いますし、昔は良かったっていうのも一つ確かにあるかなとは思っています。はい。

Cさん、静岡市はやっぱあれですね平地が少ないっていうか、特に街中がですね。それで家賃が高いんじゃないかなと、需給の関係でですね。

それとやっぱりねホテルが少ないっていうのはこれ経済界からも御指摘をいただい

てまして、やっぱりこれからインバウンドにしてもですね、ちゃんとしたホテルっていうかですね、そういうしっかりしたホテルがないと、なかなか観光にも結びつけられないんで、これは静岡市の課題だと思いますので、またあの難波市長とよくお話をしたいと思います。

それからDさん、いやいいっすね、ウェルビーイング100%ってね、本当にうらやましいなど。そういうDさんみたいな方をですね、たくさん県民にあの広めていきたいというふうに思いますので、また引き続きよろしくをお願いします。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。皆様、普段の御活動からいろいろ御発言、御意見等、それから楽しいお話も頂戴できて本当にありがとうございます。

それでは時間もそろそろ迫ってまいりましたので、もし、知事の方から何かまとめて御発言がありましたら。

(知事)

今日は限られた時間ではありましたが、皆さんから本当に地域に根ざしたり、あるいは時代を背景にですね、様々な問題提起ですね、御意見をいただきまして本当にありがとうございました。すぐに施策に反映できるものから、まだ時間が掛かるものもあるかと思いますが、いただきました御意見についてはですね、しっかり我々としても真摯に受け止めて検討してまいりたいというふうに思っております。

またこうした機会をですね、いろいろ設けていきたいと思いますので、引き続きまた県政に対しまして御理解と御支援賜りますようお願い申し上げます、お礼の御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(望月広聴広報課長)

ありがとうございました。

これをもちまして、知事広聴「やすとも知事と県政を語ろう」の方を終了いたします。御出席の皆様、本日は本当にありがとうございました。